

QI	新生児呼吸窮迫症候群（RDS）の児で、生後2時間以内にサーファクタント投与された症例の割合
分子	分母のうち、生後2時間以内にサーファクタント気管内投与を受けた症例
分母	RDSの診断でサーファクタント投与を行ったNICU入院症例
根拠	2015年の「WHO recommendation of interventions to improve preterm birth outcomes」では、RDSの児に対するサーファクタントの投与時期として生後2時間以内の早期投与が奨励されている。生後2時間以内の投与では、それ以降の投与に比べ、新生児死亡、気管支肺異形成、気胸のリスクを減少されると報告されている。
目標	100% 上記の推奨を踏まえ、サーファクタント投与はなるべく生後早期が望ましい。出生後の処置を迅速に行い、全症例生後2時間以内のサーファクタント投与を目指す。

